

科目名	臨床免疫学						授業の種類	講義	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期	
<p>【授業の目的・ねらい】 臨床工学技士が接する多くの患者は、生命の危機に瀕した重篤な病態を呈している。そのような患者は生体防御機構である免疫機能の低下をきたしているケースが多い。幅広い業務領域を有する臨床工学技士が感染の惹起や媒体とならないためにも一般的な免疫学的知識を修得しておくことは必須であり、合わせて感染の原因となる微生物に対する知識も必要である。</p>											
【実務者経験】											
<p>【授業全体の内容の概要】 標準的な免疫系の機能とはたらきについて解説する。 また、免疫系の標的となり生体を脅かす存在である微生物についても解説する。</p>											
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・免疫系に関連する機構とそのはたらきを説明することができる。</li> <li>・微生物毎の特徴や関連する病態、疾患について説明することができる。</li> </ul>											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	授業ガイダンスにより講義概要とポイントを知り、学習計画を立てることができる										
2	生体における免疫系の器官と概要を説明できるようになる										
3	自然免疫と獲得免疫の相違点を説明できるようになる										
4	細胞性免疫の働きについて説明できるようになる										
5	液性免疫の働きについて説明できるようになる										
6	免疫系の復習とまとめ										
7	中間テストにて理解度を確認する										
8	細菌の構造と種類について適切な知識を身につける①										
9	細菌の構造と種類について適切な知識を身につける②										
10	ウイルスのはたらきと疾患の関係についての知識を身につける										
11	真菌類に関連する疾患についての知識を身につける										
12	原虫や寄生虫に関連する疾患についての知識を身につける										
13	微生物に関連する疾患と治療についての知識を身につける										
14	微生物毎に消毒法や滅菌法の違いを説明できるようになる										
15	微生物学分野における復習とまとめ、プレテスト										
定期筆記試験											
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプル免疫学【改訂第5版】、中島 泉ほか、南江堂</li> <li>・コンパクト微生物学【改訂第4版】、小熊 恵二・堀田 博、南江堂</li> </ul>											
<p>【準備学習・時間外学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと</li> <li>・講義後は板書と教科書の要点をまとめる作業を行うこと</li> </ul>											
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</p> <p>試験の結果を100点満点で成績を評価する 中間テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する</p>											